

平成 31 年度 青少年健全育成の活動提言

活動提言 「地域の子どもたちを地域で育てる」という視点による連携強化

青少年の健全育成の基本方針

青少年の健全な育成を図るため、関係機関、団体等は相互に緊密な連携をとり、青少年の自主性や創造性を伸ばすために必要な諸条件を整備し、青少年自身による向上と発展への活動を支援していくことに努める。さらに、家庭、学校、地域社会など、広く市民の理解と協力を得て、次に掲げる目標達成に向けて諸施策を推進する。

- (1) 明るく健全な家庭づくり
- (2) 青少年の社会参加
- (3) 青少年のためのよりよい環境づくり

I 趣 旨

次代を担う青少年が、心身ともに健やかにたくましく成長することは、市民すべての願いであります。また、未来を明るく生き生きとした社会にするために大人に課せられた大きな命題でもあります。

現代は、少子・高齢化や核家族化、さらには都市化や価値観の多様化などの社会の急速な変化に伴い、家族の絆や地域社会の連帯感、隣人愛などが薄れてきています。そのため、青少年を取り巻く環境は大きく変化し、青少年をめぐる問題も様々な形となって現れています。

こうした中で青少年が被害者となる虐待問題や凶悪事件の増加、学校における生徒指導上の諸問題、青少年による凶悪事件の多発や薬物乱用問題、インターネット利用に伴うトラブル等、青少年をめぐる問題は深刻な状況にあり、その対応は国民的課題となっています。

当市においても、

- ・いじめや不登校等の生徒指導上の課題
- ・万引きの検挙、補導数が高水準で推移
- ・子育てに対する不安と虐待相談の増加
- ・性の逸脱行動の懸念

等がみられ、極めて憂慮すべき事態を迎えています。

これらの背景としては、社会環境の変化とともに、家庭の教育機能や地域社会の青少年育成機能の低下、学校教育の問題など、様々な要因が複雑に絡み合っており、大人や社会全体の歪みが青少年に投影しているものと考えられます。したがって、学校だけに責任を負わせるのではなく、これからの社会全体の在り方の問題として、「次代を担う青少年の育成は、社会全体の責務である」という認識に立った取組が必要です。

特に、家庭においては、「子どもの人格形成の基盤は、家庭にある」との認識に立ち、保護者に

は、基本的な倫理観や生活態度、社会規範をしつけていく子育ての第一義的責任があることを自覚するとともに、行き過ぎた「しつけ」は虐待であり、「しつけ」を口実とした体罰によらず、汗して努力する大切さや思いやりのある明るい家庭をつくることが求められています。

また、地域社会においては、「地域の子どもたちを地域で育てる」という観点に立ち、家庭・学校・地域住民・企業・民間団体・関係機関が、「地域コミュニティ」としてのネットワークを構築することにより、子どもたちが多様な人間関係や自然体験・社会体験等を通じて社会性や主体性を習得し、個性を伸ばしていけるような多様な活動の場の設定が具体的に求められています。

これまでも、当協議会では、諸問題の解決を図るため、様々なことを提言してきました。それらは、地域あるいは推進団体によって着実に成果を上げつつありますが、今後も、継続して取り組む必要があると思われれます。

よって、次のように提言内容を定め、各推進団体における施策を互いに緊密な連携をもって総合的に推進します。

II 主 唱

八戸市青少年問題協議会

III 推進活動団体

八戸市、八戸商工会議所、八戸市教育委員会、小・中・高等学校、八戸市連合父母と教師の会、八戸市 青少年生活指導協議会連合会、八戸市青少年健全育成「愛の一声」市民会議、八戸市少年団体活動振興協議会、八戸地区保護司会、八戸市社会福祉協議会、八戸市民生委員児童委員協議会、八戸市体育協会、八戸市交通安全母の会連合会、八戸青年会議所、八戸警察署、八戸地区連合防犯協会、八戸市私立幼稚園協会、八戸市保育連合会

IV 期 間

平成31年4月1日～平成32年3月31日

V 提言内容

1 「さわやか 八戸 あいさつ運動」の展開

未来の八戸市を担う子どもたちが「さわやかな人間」になるよう健全育成していくことは、八戸市民全員の責務である。子どもたちがひとりの市民として社会参加するときの規律の第一は、「あいさつ」が自発的にできることであり、そのための「あいさつ運動」を市民総ぐるみで展開する。

八戸市内すべての家庭、学校、地域社会、企業、団体等のあらゆる場面で、「さわやかなあいさつ」が飛び交うよう啓発・参加を呼びかける。

今年度も、具体的な重点事項として、家庭や学校で基本的な生活習慣を身に付けさせるためにも、返事をきちんとする運動と履き物を揃える運動を展開する。さらに、さわやかでクリーンなまちづくりを目指して「ゴミ拾い運動」を展開する。

2 青少年の健全育成の基盤となる「地域コミュニティ」の形成

子どもたちへの学校外での多様な体験の場の提供、問題行動や家庭問題の予防、子どもたちの安全確保等を図るため、子どもたちのすこやかな育成を地域全体で進める。そのために、家庭、学校、PTA、青少年団体、スポーツ団体、町内会、ボランティア団体、企業など、地域の様々な機関や団体をネットワーク化した「地域コミュニティ」の形成を促進する。

- (1) 家庭や地域を巻き込んだ社会体験学習を展開する。
- (2) 青少年のボランティア活動の拡充を図るとともに、地域のボランティア活動への参加を推進する。
- (3) 社会人や地域人材の学校への活用を促進する。
- (4) 周りから子どもをサポートしていくために、日頃から地域住民や地域の諸団体、関係機関、学校などとの連携のもと、情報を速やかに把握し、巡回指導や声かけ活動をする体制を整える。

3 健全な家庭づくりへの支援

健全な家庭づくりに向け、親に対する意識啓発や情報の提供に努めるとともに、親が家庭に閉じこもることなく気軽に集まれる場を整備し、地域社会に根ざした家庭の実現に向けた取組を推進する。

- (1) 「家庭の日」運動等の実践を通して、健全な家庭づくりへの促進を図る。
- (2) 父親の子育て参画等を促進し、家庭教育の学習機会の充実を図る。
- (3) 子育てに関する体験や悩みが共有できる「乳幼児をもつ親たちの交流の場」の設定を図る。
- (4) 家庭での読書の推進を図り、子どもの豊かな心を育む。
- (5) 関係機関の広報啓発活動の内容の充実と配付対象の拡充を図る。

4 体験活動の推進

- (1) 青少年団体における活動など学校外活動への参加を奨励する。

ボーイスカウト・ガールスカウト・海洋少年団、子ども会、スポーツ少年団等青少年団体、ボランティア団体、文化・スポーツ団体等の地域における活動についての理解を深め参加を奨励する。

- (2) 自然体験活動を推進する。

少年自然の家や野外施設の利用促進を図り、自然を教材とした環境学習活動や冒険活動など、豊かな心を育む自然体験活動を推進する。

- (3) 身近な体験活動の場の活用を図る。

子どもたちにとって魅力ある学習の場である児童科学館、博物館、美術館、是川縄文館、図書館、南郷歴史民俗資料館、公民館、マリエント、八戸ポータルミュージアム、八戸インテリ

ジェントプラザ、八戸公園等の活用を図る。

5 今日的な課題への適切な対応

(1) いじめ問題の解決に向けた取組の充実を図る。

①いじめ防止対策推進法が平成25年の施行から3年以上経過し、国及び県において基本方針が改定されたことに伴い、八戸市いじめ防止基本方針を見直し、いじめ問題の基本認識を徹底するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、相談員の活用等による教育相談・支援・指導体制の充実を図る。

②いじめを起こさないために、学校・地域・家庭・社会で、温かい集団づくりを強化する。

③いじめを黙認しないために、「だめなことは、だめ」と言える規範意識、正義感の醸成などを推進する。

(2) 万引きやインターネットトラブル、喫煙、薬物乱用問題等への対応の充実を図る。

①万引き撲滅に向け、警察や関係機関と連携し、JUMPチーム活動をはじめとした各種活動を積極的に展開し、規範意識の高揚を図る。

②地域ぐるみで、万引き、インターネットトラブル、喫煙、薬物乱用等の防止活動を推進するために、学校、地域において、総合的な非行防止教室や情報モラル教室、薬物乱用防止教室を積極的に開催する。

(3) 家庭支援や虐待防止への取組の充実を図る。

支援を必要としている家庭や虐待を受けている子どもを早期に発見し、適切な支援や保護を行うため、関係機関で情報や考え方を共有する。

(4) 社会環境改善のための地域ぐるみの取組の拡充を図る。

社会環境改善の取組を、地域コミュニティを基盤とする活動として具体的に位置づけ、有害環境の浄化、関係業界に対する一層の自主規制の要請等、地域ぐるみの取組の充実を図る。

(5) いのちの教育を含めた「生き方に関する指導」の充実を図る。

あらゆる場面で、交通ルールの遵守や性に関する行動の適切な選択、金銭教育に関わることなど、「生き方に関する指導」の充実を図る。